

## 10. 国際委員会

委員長 宮崎 勝

### 1. 国際委員会情報について

本会と密接な関連がある国際学会ならびに主要国の外科系学会の最新情報を逐次整理して、日外会誌上に随時掲載している。

### 2. 外国人名誉会員について

外国人名誉会員の推薦について、2011年の第111回定期学術集会在東日本大震災の影響で紙上開催となったことから、第1号議案で報告のあった第111回で推薦予定であった Hans D. Saeger 教授に加えて、Peter Neuhaus 教授と Hiram C. Polk, Jr. 教授の3名を推薦した。

### 3. ドイツ外科学会との若手外科医の学術交流制度について

本会とドイツ外科学会とでそれぞれの学術集会上に日本側、ドイツ側から推薦のあった若手外科医を1名ずつ招聘し、学術発表の機会を与える交流である。昨年開催された第128回ドイツ外科学会には澤木 正孝 正会員（名古屋大学がんプロフェッショナル養成プラン特任講師）と杉町 圭史 正会員（九州大学消化器・総合外科特任講師）の2名が参加された。本年の第129回は、馬場 祥史 正会員（熊本大学消化器外科）が参加される。ドイツ側から第111回に1名参加予定であったが、紙上開催となったことから参加することが出来なかった。そのため、本年の第112回には、Daniel Palmes 先生（Klinik und Poliklinik）と Ulrich Bork 先生（Klinik für Allgemein）の2名が参加される。

### 4. American College of Surgeons (ACS) との若手外科医の学術交流制度について

本会ならびに ACS Japan Chapter と ACS とでそれぞれの総会上に日本側、ACS 側から推薦のあった若手外科医を1名ずつ招聘し、学術発表の機会を与える交流である。昨年開催された第97回 ACS には山田 豪 正会員（名古屋大学消化器外科）が参加し、本年の第98回は、小松 周平 正会員（京都府立医科大学消化器外科）が参加される。ACS 側から第111回に1名参加予定であったが、紙上開催となったことから参加することが出来なかった。そのため、本年の第112回には、Matthew Hanasono 先生（University of Texas MD Anderson Cancer Center）と Stephen R. Grobmyer 先生の2名が参加される。

### 5. Society of University Surgeons (SUS) との交流について

従来から交流を行ってきた SUS については、国際委員会が交流の窓口となっている。今年2月に開催された Academic Surgical Congress では、本会から11演題が受け入れられた。

### 6. デベロピングカントリーの外科医との交流（トラベルグラント）について

第93回総会より実施されたこの制度は、第94回総会の際から本会の正式事業として、30名分の旅費を補助している。本年度も、選考に際しては会頭のサポートに徹した。

選考時に考慮すべき要件（覚書き）

- 1) 地域性
- 2) 研究発表の分野
- 3) 複数回の応募(当選している場合と、応募するも落選している場合が考えられ、前者は選考から外し、後者については選考の対象とし、できれば選出する)

### 7. International Federation of Surgical Colleges について

I. F. S. C に関しては、昭和55年度より再加入し交流を開始しているが、今村正之名誉会員が対処している。その事業としては各国外科学会の情報の収集、分析、WHO の諮問に対する提案、発展途上国外科

学会に対する助言と外科医の短期間派遣などの援助を行っている。

#### 8. 研修証明書（Certification）発行について

平成4年度より、本会の認定施設において研修を行った海外からの留学医師に対して標記を授与している。規定は下記の通りである。

海外からの留学医師に対する研修証明書（Certification）規定

- 1) 本証明書は、海外からの留学医師が、外科学会の認定する施設において一定期間の研修を終了したことを証明するものである。
- 2) 外科学会国際委員会は当該施設より提出された一定書類に従い本証明書の発行を行う。
- 3) 研修期間は6カ月以上とする。
- 4) 本証明書には、外科指導責任者の署名および外科学会会長の署名を必要とする。
- 5) 本証明書発行に必要な費用（5,000円）は被証明者負担とする。

## Ⅳ. 社会貢献・責務

### 11. 保険診療委員会

委員長 岩 中 督

委員会を8月23日に開催した。まず、最初に、本年度の活動方針について検討し、本年度も例年のように臓器別専門小委員会を設置する事とした。すなわち、日本移植学会、日本胸部外科学会、日本呼吸器外科学会、日本消化器外科学会、日本小児外科学会、日本大腸肛門病学会、日本内分泌外科学会、日本乳癌学会、日本臨床外科学会の各学会にも所属している日本外科学会保険診療委員の先生方に、総括、総論、乳腺、内分泌、上部消化管、下部消化管、肝胆膵脾、肺縦隔、心血管、小児、移植の各分野の臓器別専門小委員会の委員になって頂き、小委員会ごとに保険診療報酬に関する改正要望項目を作成して頂いた。総括小委員会において、臓器別専門小委員会から提出された要望事項と1回の手術で複数の臓器切除等を行う複数手術に関する要望をまとめて、「社会保険診療報酬に関する改正要望書」を作成した。6月に厚生労働省に提出し、保険診療報酬改正を要望した。

さらに、日本外科学会でまとめた診療報酬の改正要望項目の中から重要要望項目を選択し、外科系学会社会保険委員会連合(外保連)に提出した。外保連より、要望順位づけ検討ワーキンググループの設置に伴う作業依頼があり、A評価項目を検討した。

その後、厚生労働省より、外保連を通して改正要望書に対するヒアリング依頼があり、8月23日に打ち合わせをし、9月9日のヒアリングに対して日本臨床外科学会と合同で1. 手術通則14の改正、2. 経皮経頸部食道胃管挿入術、の2項目のヒアリング対応をした。

また、ティーエスワンを食道癌に使用するため、「ティーエスワン」食道癌への保険適用に関する要望書(巻末)を提出した。

なお、保険診療委員会の恒常的な活動として、外保連の手術委員会、処置委員会、検査委員会、麻酔委員会、実務委員会の委員として、保険医療の適正化及び外保連試案改訂(『外保連試案2012』12月発行)について活動を行った。

外保連より、引き続き、手術名のコーディング及び医療材料・医療機器、生体検査に係る医療材料のワーキンググループの設置に伴う作業依頼があり、矢永委員を代表委員(医療材料・医療機器は座長)として対応した。

その他、厚生労働省の要望により、ICD-11への改訂に向けた協力や体制の検討を行った。

以下に日本外科学会から厚生労働省に提出した要望書の結果及び複数手術に関する要望結果を転載する。

# 保険診療委員会要望結果表（新設）【暫定版】

◎＝最重要要望項目、○＝重要要望項目、無印＝要望項目

	項目名	外保連A 評価項目	一次評価 受付番号	二次評価 受付番号	24年度改定結果	詳細
1	◎経皮経食道胃管挿入術(PTEG)の造設	○		127	採用	K664-2 (14,610点)
2	◎周術期抗凝固・抗血小板療法管理料			—		
3	◎人工乳房による二期的乳房再建術(乳房切除後)			—		
4	◎内視鏡下甲状腺切除術(片葉の場合、両葉の場合)	○		先進医療		
5	◎空腸嚢移植術(胃切除術における)			—		
6	◎食道内多チャンネルインピーダンス・pH測定検査			—		
7	◎高分解能食道運動機能検査			—		
8	○腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア手術	○		133	採用	K633-2 1 (14,610点)
9	○胸腔鏡下食道筋層切開術			152		
10	○胸腔鏡下食道憩室切除術			155	採用	K524-2 (34,130点)
11	胸腔鏡下食道良性腫瘍切除術			—		
12	腹腔鏡下胃縮小術(腹腔鏡下sleeve状胃切除術)			先進医療		
13	◎直腸肛門機能回復訓練			—		
14	◎ストーマサイトマーキング(ストーマ位置決め)			143	採用	K939-3 (450点)
15	◎低侵襲経肛門的局所切除術 ※MITAS	○		147	採用	K739-3 (16,700点)
16	○腹腔鏡下直腸脱手術			先進医療	採用	K742-2 (25,810点)
17	○ストーマケア療養指導料			—		
18	◎酵素素阻害薬・抗菌薬腸局所持続動注療法	○		—		
19	◎腹腔鏡下脛体尾部腫瘍切除術	○		先進医療	採用	K702-2 (36,730点)
20	◎縦隔悪性腫瘍手術 2. 摘出・広汎	○		139	採用	K504 2 (56,020点)
21	◎胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術、区域切除術、リンパ節郭清を伴うもの			145	採用	K514-2 2 (72,640点)
22	◎心臓大血管再手術			130	採用	K555 注(100分の50加算)
23	◎小腸移植術(生体部分小腸移植術、移植用小腸採取術、同種死体小腸移植術)			先進医療		
24	◎処置における小児加算の新設	○		—		
25	◎鎮静を要する検査の管理料の新設			—		
26	○鏡視下腫瘍試験切除術			150	採用	K488-3 (13,500点)、 K488-4 (13,500点)、 K636-3 (11,320点)、 K636-4 (11,320点)
27	○多発性小腸閉鎖多吻合術			154	採用	K729-2 (47,020点)
28	○先天性食道狭窄症根治術(食道切除)			156	採用	K528-2 (51,220点)
29	◎移植臓器斡旋管理料	○		—		
30	◎臓器移植レシビエント外来指導管理料			—	採用	B-001の25 (300点)
31	◎生体臓器移植術			—		
32	○生体移植用脛体尾部採取術			—		

要望項目数: 32  
採用項目数: 14  
採用割合: 43.75%

- 注 外保連A評価項目欄は「外保連実務委員会によるA評価項目」を示す  
 注 厚生労働省事務局による1次評価結果: 診療報酬調査専門組織・医療技術評価分科会(23・11・16)  
 注 分科会委員による2次評価結果: 診療報酬調査専門組織・医療技術評価分科会(24・1・13)  
 注 新規保険収載等の評価をする優先度が高いと考えられる技術の受付番号を示す  
 注 二次評価受付番号欄の「先進医療」は「先進医療にて行われており、先進医療専門家会議において、実績報告等に基づき、別途保険導入について評価が行われるため、医療技術評価分科会の評価対象外」項目を示す

## 保険診療委員会要望結果表(改正)【暫定版】

◎＝最重要要望項目、○＝重要要望項目、無印＝要望項目

	保険記号	項目名	外保連A 評価項目	一次評価 通し番号	二次評価 通し番号	24年度改定結果	詳細
1	B001-5	◎小児科療養指導料の算定疾患の拡大			—		
2	C105	◎在宅成分栄養経管栄養法指導管理の栄養剤適応拡大			—	一部採用	在宅小児経管栄養法指導管理料(1,050点)の新設、「注入ポンプ加算」「在宅経管栄養法用栄養管セット加算」の要件拡大
3	D234	◎胃・食道内24時間pH測定	○		—		
4	D313	◎大腸ファイバースコープ			162		
5	J039	◎血漿交換療法(血液型不適合肝移植に対するもの)	○		165	採用	適応拡大(A B O血液型不適合間若しくは抗リンパ球抗体陽性の同種肝移植)
6	手術通則7	○通則7の加算適応疾患の拡大			163	採用	適応拡大(K142の6, K633の5, K634, K666-2, K697-5, K716-2, K717, K729-2, K729-3, K734-2, K735, K735-3, K756, K756-2追加)
7	手術通則14	◎手術通則14の改正	○		159	採用	複数手術の加算の要望結果参照
8	K474-3	◎乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)	○		160	点数増	4,200点 → 6,300点
9	K519	○先天性気管狭窄症手術			—	点数増	98,100点 → 146,950点
10	K529	◎胸腔鏡下食道悪性腫瘍根治術			161	点数増	1,113,900点 → 122,540点、2,97,770点 → 101,490点

要望項目数: 10  
採用項目数: 7  
採用割合: 70.00%

- 注 外保連A評価項目欄は「外保連実務委員会によるA評価項目」を示す
- 注 厚生労働省事務局による1次評価結果: 診療報酬調査専門組織・医療技術評価分科会(23・11・16)
- 注 分科会委員による2次評価結果: 診療報酬調査専門組織・医療技術評価分科会(24・1・13)
- 注 新規保険収載等の評価をする優先度が高いと考えられる技術の受付番号を示す

## 保険診療委員会要望結果表(特定保険医療材料)【暫定版】

◎＝最重要要望項目、○＝重要要望項目、無印＝要望項目

	項目名	24年度改定結果	詳細
1	◎ディスプレイ持続吸引装置		
2	◎冠動脈バイパス術用自動吻合器(加算)		
3	◎臓器保存液		

要望項目数: 3  
採用項目数: 0  
採用割合: 0.00%

同一手術野(同一皮切)における複数手術の加算の要望結果【暫定版】

22年度点数表区分	手術式名(主たる手術)	22年度点数表区分	手術式名(従たる手術)	24年度 改定結果
K464 1	上皮小体腺腫過形成手術・上皮小体摘出術	K461 1	甲状腺部分切除術・甲状腺腫摘出術・片葉のみの場合	
K504	縦隔悪性腫瘍手術	K511	肺切除術	採用
K514	肺悪性腫瘍手術	K484	胸壁悪性腫瘍切除	
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K374	咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)	
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K394	喉頭悪性腫瘍手術	
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K395	喉頭、下咽頭悪性腫瘍手術(頭部、胸部、腹部等の操作による再建を含む)	採用
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K403	気管形成手術(管状気管、気管移植等)	
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K410	口腔底悪性腫瘍手術	
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K415	舌悪性腫瘍手術	
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K514	肺悪性腫瘍手術	
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K560 5	大動脈瘤切除術(吻合または移植を含む) 5 下行大動脈	
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K655	胃切除術	
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K657	胃全摘術	
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K695 1	肝切除術 1 部分切除	
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K695 2	肝切除術 2 区域切除・亜区域切除	
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K695 3	肝切除術 3 葉切除	
K527	食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの)	K719	結腸切除術	
K528	先天性食道閉鎖症手術	K664	胃瘻造設術	
K529	食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの)	K374	咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)	
K529	食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの)	K394	喉頭悪性腫瘍手術	
K529	食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの)	K395	喉頭、下咽頭悪性腫瘍手術(頭部、胸部、腹部等の操作による再建を含む)	採用
K529	食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの)	K403	気管形成手術(管状気管、気管移植等)	
K529	食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの)	K410	口腔底悪性腫瘍手術	
K529	食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの)	K415	舌悪性腫瘍手術	
K529	食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの)	K514	肺悪性腫瘍手術	
K529	食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの)	K560 5	大動脈瘤切除術(吻合または移植を含む) 5 下行大動脈	
K529	食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの)	K655	胃切除術	
K529	食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの)	K657	胃全摘術	
K529	食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの)	K695	肝切除術	
K529	食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの)	K719	結腸切除術	
K560	大動脈瘤切除術(吻合または移植を含む)	K555	弁置換術	採用
K614	血管移植術、バイパス術(腹部大動脈)	K614	血管移植術、バイパス術(下肢動脈)	
K633 4	腹壁破裂手術(臍帯ヘルニア手術に準じる)	K729	腸閉鎖症手術	
K667	噴門形成術	K664	胃瘻造設術(経皮的内視鏡下胃瘻造設術を含む。)	採用
K695	肝切除術	K711	脾摘出術	
K697-3	肝悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法	K672	胆嚢摘出術	採用
K697-5	生体部分肝移植	K711	脾摘出術	
K706	膵管空腸吻合術	K672	胆嚢摘出術	
K706	膵管空腸吻合術	K680	胆道消化管吻合(例えば総胆管十二指腸吻合、または胆嚢十二指腸吻合)	
K711	脾摘出術	K672	胆嚢摘出術	
K711-2	腹腔鏡下脾摘出術	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	採用
K716	小腸切除術	K632	腹壁腫瘍摘出術	
K716	小腸切除術	K633	ヘルニア手術	採用

同一手術野(同一皮切)における複数手術の加算の要望結果【暫定版】

22年度点数表区分	手術式名(主たる手術)	22年度点数表区分	手術式名(従たる手術)	24年度改定結果
K716	小腸切除術	K672	胆嚢摘出術	
K716	小腸切除術	K714	腸管癒着症手術	採用
K716	小腸切除術	K718	虫垂切除術	
K716	小腸切除術	K726	人工肛門造設術	
K716	小腸切除術	K728	腸狭窄部切開縫合術	
K716	小腸切除術	K773	腎(尿管)悪性腫瘍手術	
K719	結腸切除術	K632	腹壁腫瘍摘出術	
K719	結腸切除術	K633	ヘルニア手術	
K719	結腸切除術	K714	腸管癒着症手術	採用
K719	結腸切除術	K718	虫垂切除術	
K719	結腸切除術	K728	腸狭窄部切開縫合術	
K719	結腸切除術	K773	腎(尿管)悪性腫瘍手術	
K729	腸閉鎖症手術(多発腸閉鎖症の場合:腸閉鎖症手術X腸閉鎖症の数)			
K734	腸回転異常症手術	K729	腸閉鎖症手術	
K739	直腸腫瘍摘出術(ポリープ摘出を含む。)	K743	痔核手術(脱肛を含む。)	
K739	直腸腫瘍摘出術(ポリープ摘出を含む。)	K744	裂肛又は肛門潰瘍根治手術	
K739	直腸腫瘍摘出術(ポリープ摘出を含む。)	K746	痔瘻根治手術	
K740	直腸切除・切断術	K633	ヘルニア手術	
K740	直腸切除・切断術	K714	腸管癒着症手術	
K740	直腸切除・切断術	K718	虫垂切除術	
K740	直腸切除・切断術	K728	腸狭窄部切開縫合術	
K743	痔核手術(脱肛を含む。)	K743-2	肛門括約筋切開術	
K746	痔瘻根治手術	K743-2	肛門括約筋切開術	
K746	痔瘻根治手術	K860	膣壁形成手術	
K751	鎖肛手術	K859	造瘻術、腔閉鎖症術	採用
K836	停留精巢固定術	K633 5	鼠径ヘルニア手術	
K860	膣壁形成手術	K743	痔核手術(脱肛を含む。)	
K860	膣壁形成手術	K744	裂肛又は肛門潰瘍根治手術	

## 胸腔鏡下・腹腔鏡下手術の取扱いについて

中央社会保険医療協議会総会(第218回) 平成24年1月27日(金)  
 総-1-3資料抜粋 (<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r985200000215yd.html>)

B.新しい胸腔鏡下・腹腔鏡下手術で、保険導入検討に当たっての取り扱いについて議論の対象とした手

①原則として保険適用を行う手術

(既に開腹等手術が保険適用されており、外保連試案第8版でC難度及びD難度の手術)

No.	外保連試案第8版に掲載されている手術名	医療技術評価・再評価提案書における名称	24年度改定結果
1	ヘルニア手術(腹腔鏡下)・大腿ヘルニア		K633-2 2(15,460点)
2	ヘルニア手術(腹腔鏡下)・腹壁瘢痕ヘルニア	腹腔鏡下腹壁瘢痕ヘルニア手術	K633-2 1(13,770点)
3	横隔膜縫合術(胸腔鏡下)		K534-3(31,990点)
4	横隔膜縫合術(胸腔鏡下)		K534-3(31,990点)
5	胸腺摘出術(胸腔鏡下)		K534-2(58,950点)
6	胸壁良性腫瘍摘出術(胸腔鏡下)		すでにK513-3にある
7	子宮腔上部切断術(腹腔鏡下)		K876-2(14,620点)
8	縦隔腫瘍摘出術(胸腔鏡下)		K534-2(58,950点)
9	縦隔切開術(胸腔鏡下)		K502-3(26,750点)
10	食道下部迷走神経切断術(幹迷切)(腹腔鏡下)		K659-2(21,780点)
11	食道憩室切除術(胸腔鏡下)	胸腔鏡下食道憩室切除術	K524-2(34,130点)
12	心膜開窓術(胸腔鏡下)		K539-3(16,060点)
13	腎嚢胞切除術(腹腔鏡下)		K770-3(20,360点)
14	造脛術(骨盤腹膜利用)(腹腔鏡下)		K859-2(38,690点)
15	腸回転異常症手術(腹腔鏡下)		K734-2(22,910点)
16	腸閉鎖症手術(腹腔鏡下)		K729-3(32,310点)
17	尿失禁手術(腹腔鏡下)		K823-4(32,440点)
18	汎発性腹膜炎手術(腹腔鏡下)		K639-3(16,460点)
19	小腸切除術(悪性腫瘍)(腹腔鏡下)		K716-2 2(37,380点)
20	副腎悪性腫瘍摘出術(腹腔鏡下)		K756-2(51,120点)
21	胃上部血行遮断術(腹腔鏡下)	腹腔鏡下胃上部血行遮断術	K532-3(38,340点)
22	拡大胸腺摘出術(胸腔鏡下)(重症筋無力症に対する)	重症筋無力症に対する胸腺摘出術(胸腔鏡による)	K534-2(58,950点)
23	胸管結紮術(乳び胸手術)(胸腔鏡下)		K501-3(15,230点)
24	結腸瘻造設術(逆流防止弁付加)(腹腔鏡下)		K725-2(12,080点)
25	結腸瘻造設術(腹腔鏡下)		K725-2(12,080点)
26	後腹膜腫瘍切除術(腹腔鏡下)		K642-2(32,310点)
27	食道筋層切開術(胸腔鏡下)	胸腔鏡下食道筋層切開術	K530-2(44,500点)
28	肺切除術(1葉を超えるもの)(胸腔鏡下)	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術、区域切除術、リンパ節郭清を伴うもの/胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術楔状部分切除1箇所	K513 2(58,950点)
29	肺組織試験採取術(胸腔鏡下)	鏡視下腫瘍試験切除術	K488-4(13,500点)
30	卵管形成術(腹腔鏡下)		K890-3(42,120点)
31	胃空腸吻合術(腹腔鏡下)	腹腔鏡下胃空腸吻合術	K662-2(17,700点)
32	後腹膜腫瘍試験切除術(腹腔鏡下)	鏡視下腫瘍試験切除術	K636-4(11,320点)
33	試験開胸術(胸腔鏡下)		K488-3(13,500点)
34	腫瘍試験切除術(鏡視下)	鏡視下腫瘍試験切除術	K488-4(13,500点)
35	縦隔組織試験切除術(胸腔鏡下)	鏡視下腫瘍試験切除術	K488-4(13,500点)
36	骨盤内リンパ節群郭清術(腹腔鏡下)		K627-2(28,460点)
37	精索静脈瘤手術(腹腔鏡下)		K834-2(18,590点)

- B.新しい胸腔鏡下・腹腔鏡下手術で、保険導入検討に当たっての取り扱いについて議論の対象とした手術  
 ②医療技術評価分科会としては保険適用を行わないこととした手術  
 (1) 外保連試案第8版で技術度区分がE群の手術

No.	外保連試案第8版に掲載されている手術名	備考
1	子宮悪性腫瘍手術(腹腔鏡下)	先進医療として、「腹腔鏡下子宮体がん根治手術」が実施されている。

- B.新しい胸腔鏡下・腹腔鏡下手術で、保険導入検討に当たっての取り扱いについて議論の対象とした手術  
 ②医療技術評価分科会としては保険適用を行わないこととした手術  
 (2) 先進医療として行われている手術、及び先進医療として行われている手術に関連すると考えられる手術

No.	外保連試案第8版に掲載されている手術名	先進医療における名称	24年度改定結果
1	直腸脱手術(腹腔鏡下)	腹腔鏡下直腸固定術	K742-2(25,810点)
2	スリーブ状胃切除術(腹腔鏡下)	腹腔鏡下胃スリーブ状切除術	
3	膵体尾部腫瘍切除術(脾温存)(腹腔鏡下)	腹腔鏡補助下膵体尾部切除術又は核出術	K702-2(36,730点)
4	膵体尾部腫瘍切除術(脾摘を伴う)(腹腔鏡下)	腹腔鏡補助下膵体尾部切除術又は核出術	K702-2(36,730点)
5	胃バンディング術(腹腔鏡下)		
6	重症肥満に対する胃バイパス術(腹腔鏡下)		